

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3790100162		
法人名	アイコーポレーション株式会社		
事業所名	グループホームあい		
所在地	香川県高松市川部町1300番地1		
自己評価作成日	平成22年10月10日	評価結果市町受理日	平成22年4月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo-kouhyou.pref.kagawa.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3790100162&amp;SCD=320">http://kaigo-kouhyou.pref.kagawa.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3790100162&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号
訪問調査日	平成22年11月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活リハビリや生活に沿ったレクリエーション(野菜の掃除、草抜き、雑巾ぬい)</li> <li>・種類が豊富な野菜作り(45種類)</li> <li>・緑のカーテン(ゴーヤ・へちま・冬瓜)</li> <li>・流れてくる農業用水での水やり</li> <li>・排泄の自立支援</li> </ul>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

<p>木造風鉄筋平屋建ての建物で、すぐ目前には運動公園があり、春は窓から公園の桜が見える。中庭には季節の花々が植えられ、広い自家菜園には数十種類の野菜が育てられている。緑豊かな環境の下、施設長の思いが込められた理念「愛・誠」を十分理解した職員が、日々利用者本位のケアの実践に努めている。</p> <p>事業所の特徴として生活に根ざした支援を常に心がけており、野菜の収穫、調理・食事・片付けを利用者個々の力に応じて職員と共に楽しみながら行っている様子うかがわれた。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

グループホームあい(北館)

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「愛・誠」の理念をもとに、日々いろいろと試みをしている。 愛:(無制限に)赦しましょう。 誠:(無制限に)盡しましょう。	思いが込められた理念「愛・誠」に職員も賛同し、愛情と誠意を持って、利用者一人ひとりと接するよう心がけられている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運動会・月見会・ウォークラリー他、地域で行われる行事には全員ではないが交互に参加している。	散歩時の挨拶や声かけ、近隣住民のボランティアの受け入れ、地域の行事(運動会、文化祭、敬老会等)に参加したり、夏祭り等の施設行事に招くなど、双方向的な交流が持たれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特別養護老人ホーム岡本荘の地域事業として「和みの会」があるが、その会にその都度出席したり来ていただいている。「つばきの会」にも時々参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方、家族の方、介護保険課の方、地元の議員の方の参加により、公園の改修について意見を出したところ、屋根付き休憩所の設置が実現した。	会議には、利用者や家族、地域の方、市議会議員、市介護保険課、地域包括支援センターの職員等が参加している。事業所側からは、管理者のみでなく、交代で職員も出席するよう配慮がなされ、各方面から多くの方の参加が得られ有意義な会議となっている。	今後、警察や消防、近くのクリーンセンターの方へ参加を呼びかけていくことを予定している。更に広く周囲を巻き込んでいくことにより、地域拠点としてのホームの役割が期待できる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2カ月に1回の運営推進会議の他に、出向いて行き協力関係が築けるよう取り組んでいる。	2カ月毎の運営推進会議に、地域包括支援センターや市介護保険課の担当者は参加しており、その際に報告や情報交換を行っている。必要時には、相談・アドバイスを受ける等日頃から交流を図りながら、サービスの向上に活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員で正しく理解して、委員会を中心とし身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の非施錠については、早くから取り組み5年が経過している。	身体拘束廃止委員会を設けて、定例会でも取り上げる等、全職員で共通理解し取り組んでいる。 玄関は、日中施錠していない。利用者は職員の見守りの下、自由に庭先に出入りしており、安心して落ち着いた生活が送れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の定例会において、報告会や勉強会を少しづつ行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、制度を利用されている利用者もいる。職員も十分に制度を理解するため知識を共有し、活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を十分に説明し、不安や疑問点を伺い迅速に対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段からの利用者・家族間の会話等にて不平・不満を感じとったり、直接聞いた要望等に対し迅速に対応し運営に反映させている。	玄関に意見箱を設置している。月1回「あいだより」を発行したり、家族の面会時には状況報告や意見交換をしている。運営推進会議にも利用者や家族は出席している。出された意見や要望はミーティングで話し合い、反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、定例会とユニットミーティングを設け、職員間で意見交換を行い運営に反映させている。	経営者、全職員(管理者を含む)参加で月1回定例会を開き、意見交換を行い運営に反映させている。また、各係(消防、美化、拘束、備品等)を決めて、それぞれ担当者が中心となり運営の推進・改善を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の希望に沿った労働条件で働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修についての回覧版をまわし職員の希望をくみ取りながら、段階に応じて研修を受けるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者自身も積極的に勉強会などに参加し他ホームとのネットワーク作りに努め、職員も他ホームの行事等に参加したり自事業所の行事に招待したりして、日頃から交流を持てるよう取り組んでいる。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時本人から直接聞く機会を設け、求めている事・不安な事などを受け止め安心してもらえるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時に家族に直接聞く機会を設け、困っている事・不安・要望等に対応し信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の要望の受け入れが難しい場合、要望に応じたサービスを紹介できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	菜園の野菜の収穫、食事の下ごしらえ、洗濯物たたみ等を一緒に協力して行っており、良い関係が築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状態に変化があれば、その都度家族に報告し情報交換しあっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・友人の方々にも気軽に来所していただけの雰囲気づくりに努め、地域の行事等にも積極的に参加している。	開放的な造りになっており、職員も笑顔で接し、立ち寄り易い雰囲気である。一部ではあるが毎日面会に来て馴染みになっている家族もいる。また、地域行事への参加や近隣への外出、電話や手紙の投函等積極的に支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆で楽しめるようなレクリエーションを行ったり外出する際にはメンバー構成などに気を配っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居した後も、入院生活の方には洗濯物を取りに行ったり、コミュニケーションを家族にかわり取るなどフォローする。他サービスを利用している利用者・家族とも相談の受け入れや状況に応じて必要な情報提供をしたり、行事の案内をしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントやモニタリングで、本人の意向が分かる時には、ケアプランに位置づけられるように努めている。ケアカンファレンスや毎朝のミーティングで話し合っている。	日常生活において、会話や行動、表情から利用者の思いや意向の把握に努め、ケアカンファレンスや申し送りノートを通して、職員間で共有出来ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に、プライバシーを配慮しつつ話していただける範囲で聞き取りをしている。入居後も、本人や家族と馴染みの関係を築きながら、自分らしく暮らしていただけるように、家族の協力をいただきながら、記録を取り把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日中、お世話しながら一人ひとりの一日の記録をつけスタッフ全員で把握できるように努めている。日々の中で、変化や発見があった時には、記録や毎日の朝の申し送りでスタッフが話し合ったり、確認したりしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族とのかかわりの中で、要望を把握し個別に対応したりしながら、カンファレンスやアセスメントなどで、現状に即している介護計画を作成している。	担当制をとっている。本人・家族の意向を聞いて、担当者を中心にケアマネジャーや他の職員とも話し合い、個別に計画立案している。全職員は個々に立てられた計画・目標を確認しながら、日々介護できるよう介護記録の工夫がなされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果を記録しながら、気づいた事や工夫をしていく事を、申し送りノートや朝のミーティング、ケアカンファレンスで、報告・共有し、介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家事手伝いや農園を活かし共に作業を楽しめるように支援したり、自分で自分の事をやりたい方は、危険でない範囲で支援し、協力を得られる家族には利用者のニーズに合わせて協力をお願いしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアに訪問していただいたり、地域の行事にも積極的に参加している。避難訓練は、スタッフ・利用者全員参加はもちろんのこと近隣の方にも参加していただき、地域の方の協力を得ながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの主治医を利用されている利用者には、そのまま継続していただき情報の提供を支援している。本人・家族の希望を聞き入れ、同意のもとその方に合った医療が受けられるよう支援している。	利用者や家族の希望を聞き取り、それに沿うよう受診支援している。かかりつけ医の受診には職員が付き添い、受診結果について情報の共有がなされている。2週間毎に協力医療機関の医師の往診もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の情報や気づきを共有できるように、申し送りや把握している。看護職員の勤務体制を工夫し緊急時の場合を含め密に情報交換をして適切な対応をし、健康管理や医療活用の支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、書類や口答で情報提供している。定期的に職員が様子を見に行ったり、担当医師・看護師と情報交換、確認をし早期に退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化しホームでの治療や看護が出来なくなった場合、主治医・家族と相談の上、総合病院や適した病院に入院できるように支援している。(現在、看取りの取り組みはしていない)	入居時から事業所の対応可能な範囲について、本人・家族に説明を行い、看護職員が連絡調整役となり、主治医との連携を図っている。	事業所内でも高齢化・重度化が進んでいる中、利用者・家族の意向に沿ったケアを実践していくには、職員の共通理解とスキルアップが重要である。今後も利用者・家族、職員間での十分な話し合いを重ねていってほしい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定例会やミーティングなどで、看護師より応急手当や初期対応の訓練を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回は、消防訓練(夜間想定あり)を行っている。そのうち1回は、消防署の方に来ていただき地域の方々と一緒に指導を受けるようにしている。常日頃より地域の方々との交流を図り、協力が得られるよう働きかけている。	年2回消防署指導の下に避難訓練を実施している。今年は、昨年の課題でもあった夜間想定訓練や地域住民の参加も得られた。また、近くに消防署があり、近隣に住む職員がすぐに駆けつけられる応援体制もある。	今回の夜間想定訓練で新たに増えてきた課題への対処と地域住民との協力体制の更なる充実を期待したい。また、火災の他に水害や地震等も含めた包括的なマニュアルの整備が望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の対応に関して、職員がコミュニケーションをとり一律している。	トイレ誘導時は声かけに気をつけ、職員間でサインを決める等羞恥心への配慮がなされている。職員は常に利用者の誇りやプライバシーが守れるよう、利用者に合わせて対応を心がけている。記録物は事務室内のロッカーに保管しており、個人情報の取り扱いにも気を配っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人的な会話の中から利用者の希望や思いを収集し、職員で話し合っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の趣味なども把握し、職員の都合を優先したり無理強いしないよう、声かけにも気を配る。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	パーマ・毛染めは希望時に美容室へ行けるように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自家菜園で採れた野菜の掃除、下ごしらえを利用者と共に談笑しながら行っている。利用者と職員と一緒に食事し、片付けをしている。	自家菜園で収穫した野菜を使い、利用者の好みも取り入れた献立を立て、事業所内の台所で調理されている。職員と利用者は同じテーブルを囲んで食事を取り、利用者は個々の力に応じて準備や片付けを一緒にしている。時には外食の楽しみもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月1回体重測定を行い体重の増減を把握する。水分補給に関しては、定時に限らず状態や必要に応じて摂取、声かけを促す。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに応じた声かけ、誘導、口腔ケアをする。不自由な部分は、職員が介助し清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、オムツやリハビリパンツを使用しているも、トイレ誘導し排泄していただけるよう支援している。	個々の排泄パターンを把握しトイレ誘導することで、自立に向けた支援を行っている。寝たきりでオムツ使用状態だった利用者が、誘導によりトイレでの排泄が可能になった例もあり、その事が職員の励みにもなっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ホームで作ったブレンド茶(どくだみ入り)を毎日飲用している。毎日、レクリエーションで体操を取り入れている。便秘がちな利用者は、ヨーグルトを購入し摂取することで排便を促したりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴順を決めているが、毎回一人づつずらすことにしている。個々のADL(日常生活動作)に合わせて入浴支援を行っている。	週3回入浴日は決まっているが、利用者の状況に合わせて入浴出来るよう支援している。入浴嫌いの利用者には介助する職員を代えてみたり、誘い方を工夫する等して対処している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節に合わせた室温にし、ゆっくりと安眠できるよう工夫している。個々に合わせ、日中も休息してもらえるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	間違いのないよう個々に管理し、薬の説明書を職員がすぐ確認できるよう目の届くところに保管している。十分に確認するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員と一緒に、洗濯干しや食事の準備、レクリエーションなどで楽しんでいただけるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々に合わせ、公園散歩・図書館・外食・他施設の行事・地域の行事に参加し交流を持てるよう支援している。	すぐ目前に運動公園があり、天気の良い日は車いす利用者も一緒に散歩に出かけている。玄関のベンチに腰掛けたり、中庭にも自由に入出りできる。時には、職員と共に野菜を収穫することもある。また、外食や神社の参拝、地域行事や他施設の行事に参加する等の機会を積極的に設けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金の所持したり使えるように支援している	お金は、事務所にて管理している。買いたい物がある時は、職員が同行したり代行したりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけてと訴えがあれば、職員を介してかけている。家族に年賀状や暑中見舞いのはがきを代筆したり、ポストにいれる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の生花を飾り、目で楽しんだり良い匂いを嗅いだりして、花で季節が分るよう工夫している。掃除を丁寧にし清潔感を持って過ごせるようにしている。	事業所内には季節の花が生けられ、窓からは中庭や公園の花や木々の彩りが楽しめる。清潔で明るく広々とした廊下はリビングと一体になっており、ソファが所々配置され、利用者がそこで思い思いにくつろいでいる様子がうかがえた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファなどを数か所に用意しており、気の合った方と話ができるようにしてある。玄関に設置しているベンチで、夕涼みや外気浴をしながら談話されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドの使用か畳の使用かを、本人・家族の意見を聞き使いやすい方を使用してもらっている。使い慣れ思いのある物品を持ってきていただき、過去を忘れず過ごしてもらえるようにしている。	各居室の入口には、本人または職員の手作りの名札を掛けている。ベッドは、本人・家族の希望を取り入れ電動ベッドや畳ベッド、ユニット畳にマットレスと布団を置く等様々である。カーテンや家具は使い慣れた物を持って来てもらい、写真を飾ったり、職員手作りのカレンダーを掛ける等工夫がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室の入り口に大きく名前を表示し、折り紙などで飾って良く分かるようにしている。段差をつけず、手すりトイレや洗面所に自分でいけるようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価結果

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「愛・誠」の理念をもとに、日々いろいろと試みをしている。 愛:(無制限に)赦しましょう。 誠:(無制限に)盡しましょう。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運動会・月見会・ウォークラリー他、地域で行われる行事には全員ではないが交互に参加している。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特別養護老人ホーム岡本荘の地域事業として「和みの会」があるが、その会にその都度出席したり来ていただいている。「つばきの会」にも時々参加している。
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方、家族の方、介護保険課の方、地元の議員の方の参加により、公園の改修について意見を出したところ、屋根付き休憩所の設置が実現した。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2か月に1回の運営推進会議の他に、出向いて行き協力関係が築けるように取り組んでいる。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員で正しく理解して、委員会を中心とし身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の非施錠については、早くから取り組み5年が経過している。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の定例会において、報告会や勉強会を少しずつ行っている。

グループホームあい(南館)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、制度を利用されている利用者もいる。職員も十分に制度を理解するため知識を共有し、活用できるよう支援している。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を十分に説明し、不安や疑問点を伺い迅速に対応している。
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段からの利用者・家族間の会話等にて不平・不満を感じとったり、直接聞いた要望等に対し迅速に対応し運営に反映させている。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、定例会とユニットミーティングを設け、職員間で意見交換を行い運営に反映させている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の希望に沿った労働条件で働けるよう努めている。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修についての回覧版をまわし職員の希望をくみ取りながら、段階に応じて研修を受けるようにしている。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者自身も積極的に勉強会などに参加し他ホームとのネットワーク作りに努め、職員も他ホームの行事等に参加したり自事業所の行事に招待したりして、日頃から交流を持てるよう取り組んでいる。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時本人から直接聞く機会を設け、求めている事・不安な事などを受け止め安心してもらえるよう努めている。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時に家族に直接聞く機会を設け、困っている事・不安・要望等に対応し信頼関係づくりに努めている。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の要望の受け入れが難しい場合、要望に応じたサービスを紹介できるように努めている。
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	菜園の野菜の収穫、食事の下ごしらえ、洗濯物たたみ等を一緒に協力して行っており、良い関係が築けている。
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状態に変化があれば、その都度家族に報告し情報交換しあっている。
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・友人の方々にも気軽に来所していただける雰囲気づくりに努め、地域の行事等にも積極的に参加している。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆で楽しめるようなレクリエーションを行ったり外出する際にはメンバー構成などに気を配っている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居した後も、入院生活の方には洗濯物を取りに行ったり、コミュニケーションを家族にかわり取るなどフォローする。他サービスを利用している利用者・家族とも相談の受け入れや状況に応じて必要な情報提供をしたり、行事の案内をしている。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントやモニタリングで、本人の意向が分かる時には、ケアプランに位置づけられるように努めている。ケアカンファレンスや毎朝のミーティングで話し合っている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に、プライバシーを配慮しつつ話していただける範囲で聞き取りをしている。入居後も、本人や家族と馴染みの関係を築きながら、自分らしく暮らしていただけるように、家族の協力をいただきながら、記録を取り把握に努めている。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日中、お世話しながら一人ひとりの一日の記録をつけスタッフ全員で把握できるように努めている。日々の中で、変化や発見があった時には、記録や毎日の朝の申し送りでスタッフが話し合ったり、確認したりしている。
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族とのかかわりの中で、要望を把握し個別に対応したりしながら、カンファレンスやアセスメントなどで、現状に即している介護計画を作成している。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果を記録しながら、気づいた事や工夫をしていく事を、申し送りノートや朝のミーティング、ケアカンファレンスで、報告・共有し、介護計画の見直しに活かしている。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家事手伝いや農園を活かし共に作業を楽しめるように支援したり、自分で自分の事をやりたい方は、危険でない範囲で支援し、協力を得られる家族には利用者のニーズに合わせ協力をお願いしている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアに訪問していただいたり、地域の行事にも積極的に参加している。避難訓練は、スタッフ・利用者全員参加はもちろんのこと近隣の方にも参加していただき、地域の方の協力を得ながら支援している。
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの主治医を利用されている利用者には、そのまま継続していただき情報の提供を支援している。本人・家族の希望を聞き入れ、同意のもとその方に合った医療が受けられるよう支援している。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の情報や気づきを共有できるように、申し送りで把握している。看護職員の勤務体制を工夫し緊急時の場合を含め密に情報交換をして適切な対応をし、健康管理や医療活用の支援をしている。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、書類や口答で情報提供している。定期的に職員が様子を見に行ったり、担当医師・看護師と情報交換、確認をし早期に退院できるように努めている。
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化しホームでの治療や看護が出来なくなった場合、主治医・家族と相談の上、総合病院や適した病院に入院できるように支援している。(現在、看取りの取り組みはしていない)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定例会やミーティングなどで、看護師より応急手当や初期対応の訓練を行っている。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回は、消防訓練(夜間想定あり)を行っている。そのうち1回は、消防署の方に来ていただき地域の方々と一緒に指導を受けるようにしている。常日頃より地域の方々との交流を図り、協力が得られるよう働きかけている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間でその都度話し合い、言葉かけや対応を工夫している。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の表情・行動から思いが汲み取れるよう接している。 一人の職員が得た情報を共有し、どの職員が対応しても思いや訴えが読み取れるよう支援している。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大きな流れや入浴、食事は決まっているが、個人個人の時間は多い。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で服装が選べない方は、季節に合ったものを職員が選び着てもらっている。ズボンのすそ直し、ボタン付け等の支援。
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	直接食事のことを聞くと「なんでもかまんで」と言われるので、気候や家での習慣を会話の中から聞き取るようにしている。食事中に作り方などを利用者の方に教えてもらう。食器洗い・お膳拭きを以前に食堂で働いていた方に頼んでいる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	混ぜご飯が食べられない方、お茶碗での摂取が難しい方、摂取量が少ない方には皆と同じメニューで盛り付けを工夫したり+αをして提供している。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを強く拒否される方には、食後は十分なお茶摂取を促したり、食後であることや洗面所ですることにご協力せず、ケアをスムーズに受け入れてもらえる時に声かけ介助を行い口腔ケアに努めている。口腔内の異常を発見したら医師に診てもらう。

グループホームあい(南館)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	以前リハビリパンツを使用していたが布パンツに戻した方1名。チャレンジしたが無理(他者の責任になってしまう)の方1名。現在、日中が布パンツで夜間がリハビリパンツの方1名、両方併用の方1名を取り組んでいる。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方は、医師に相談しカマグ(薬)の処方、服薬と排泄チェック表で職員全員が排泄パターンを掴む。ホームで作ったブレンド茶(どくだみ入り)を毎日飲用している。
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴順を決めて毎回一人ずつずらすことにしているが、それにこだわらず利用者のペースに合わせている。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を把握し、ソファーや居室で休息している際はゆっくり休めるよう支援している。
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方用紙をまとめ、職員がすぐ確認できるようにしている。定期処方以外は、業務日誌の表に貼り申し送りを強化している。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションの中に雑巾縫いや草抜きを取り入れている。体操レクリエーションの時等と表情が違い生き生きしており、利用者本人が主導権を握っている。
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	帰宅願望をよく口にされる方が、本人宅近くの図書館に月1回行く道中、神社や寺、行きつけの病院のことを話して生まれ満足され戻る。普段の外出のことはすぐに忘れられるが、自宅付近の外出後は、一緒に行った職員に利用者から御礼の言葉が何度もある。

グループホームあい(南館)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームでは、お金は利用者本人が管理せず事務所で預かりするが、買い物の際には自分で使えるように支援している。
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、本人訴え時には職員を介してかけてもらっている。レクリエーションの中で、年賀状を家族あてに書いてもらっている。
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を食堂や南ソファー前に飾っている。食事時には、利用者の好きな音楽を流している。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂・リビング・南ソファーと個別にくつろげる場を設け、日中はそれぞれの方が共同空間の自分の居場所を持って過ごされている。
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から本を持ってきてもらい、自室での読書を楽しまれている。家庭より鉢植えを持ってきてもらい、それに水やりをしたりしている。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	夜間、トイレの明かりをつけ分かりやすくしている。